

## 2002年 夏の出来事

この夏も多くのワンを向けましたが、一例をご紹介します。

### 1. 船橋の野犬の保護作業とリハビリ



千葉県・船橋市の海浜に面した倉庫街に、十頭ほどの野良犬が生息していると、保護依頼が寄せられました。通報者に継続的な給餌や周辺の聞き込み等を指示しましたが、愛護系の方で能書きだけは達者ですが一向に動こうとはしないために、千葉県で地道に活動を行っている十年来の仲間と現地で差配をお願いして、一挙に保護する事にしました。

但し、何年も徘徊して、管理センターの捕獲もすり抜けてきた犬たちで経験豊富です。現地を調査すると、(写真上左)海浜に面したトラック置き場や砂利の集積場周辺をねぐらとしていて、行動範囲の特定などを行い、捕獲箱や手捕り、追い込みなどでは保護できないとの結論に達し、大きなサークルを設置して保護することにしました。(二段目左)の写真が設置されたサークルです。



順番に保護し、9月初旬にこの周辺の野良犬計8頭を無事に保護しました。代表格のワンコは、ボージェスと名付けた白いむく犬です。(写真上中) 保護時には、何年もの換毛が重なり合い、毛布状態でしたが、トリミングを何回も行い(写真上右)、本来の見栄えがする風体にする事に成功しました。性格も大人しく、フィラリア感染の治療などが終了すれば、良い家庭犬になれると思います。他のワンコも、日本犬の雑種で特徴と愛想がないので、この子程は簡単ではないと思いますが、リ

ハビリを行い、無事に新しい家庭に送り出したいものです。

### 2. 盲導犬協会からの放棄犬

ある盲導犬協会から、盲導犬になれなかった犬を引き取って欲しいとの依頼がありました。飼い主や管理者がいる犬についてはお断りしているのですが、どうしようもない、との事で、不思議に思いながら迎えることにしました。訓練済みの、股関節の不全が原因で盲導犬になれなかっただけならば、結構、早めに新しい家庭荷送り出せると思ったのですが、。



連れてこられた犬を見て、驚きました。線の細いのは仕方がないとしても、薄い体格と精彩のない目、落ち着いた動作等、ジャーマンシェパードの息吹が感じられません。一才四ヶ月の若犬の盛りなのに、他の犬とも遊べずに、散歩に出れば経験がなくて電柱にリーシュをからみつけ、排泄を広い公園や草むらでは行えず、帰ってきた居間で下痢と軟便を繰り返す。分かっていると説明を受けた命令は理解せず、一年目のワクチンの接種していない、、、。幼犬の記録では、二回目のワクチンはパルボの単品だけの接種で、どうしてそのような犬を盲導犬協会に入れられるのかも理解しかねます。

第一、ユーザーが希望したからと言って、盲導犬に適するように計画繁殖しているラブラドルなどと異なって、日本のジャーマンには盲導犬の系統はいません。

それを無計画にブリーダーから購入し、股関節が悪いと言って、一日10分の運動を二回させる以外はパドックに入れっぱなしならば、このような、無表情の、犬が出来るのも理解できます。新しい家庭に迎えられるように、訓練や運動などの努力もせず、里親が見つからないからと言って、任意団体に押しつける傲慢は、どの公益法人にも見られる異常な非常識です。スーと名付けたこの犬は、胃腸の調子を整え、股関節の整形手術などに一年以上、ヒトとの喜びを知るまでは二年以上のリハビリが必要と予定していますが、ジャーマンの良い遺伝を呼び覚え、意欲的な犬にしたいと願っています。

### 3. バッチャンなど



高速道路の高架下に遺棄されていた犬を、公団職員が連れてきました。バッチャンと名付けた雌の老犬ですが、もう、老い先も短い、犬です。

もう一週間は持つまい、と断定できる程に衰弱していて、応急処置の後は、QOLを考えたりハビリを始めました。

特製の肉団子を中心とした食事ならば食べられることも分かり、垂れ流しの排泄物に体が冷えたり汚れたりしないように、キルトを引いたコーナーを作り、寝たり起きたりの生活が始まりました。そう

こうしているうちに、なんとなく動きもぎこちなくなくなり、二ヶ月を過ぎようとしています。他の老犬、ジッチャンや京介などを一緒に、庭で遊べる程度まで元気を取り戻し、穏やかな最後を迎えられるように、頑張っつてゆこうと思っています。

今年の夏は、じめじめとして湿気が多く、犬たちも大変でしたが、何とか乗り切る事が出来ました。30頭余のリハビリや運動、訓練も大変ですが、涼しくなって食欲も旺盛、走り回る姿も活発になり、見ているだけで苦勞も少し忘れさせてくれます。

秋に入り、遺棄された犬たちの救助が多くなると思いますが、一頭でも多く、平戸町へ連れてきて、良い環境でゆっくりさせてあげたいと願っております。 以上